



全国連合退職校長会

会報



年頭所感

会長 入子 祐三

平成三十一年の

新春をお迎えのこと

お祝い申し上げます

戸張前会長が急逝し新体制になつての新春を迎えました。本年も変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

昨年は、猛暑に見舞われた上に、大阪府北部の地震では、ブロッコ堀の倒壊による痛ましい犠牲者がでる事故がありました。西日本では、豪雨による河川の氾濫、家屋の流失など広島県・岡山県・愛媛県などで多くの被災がありました。また北海道胆振地方東部地震では、全道で停電・断水が起き、ライフラインが脅かされる状況が発生しました。次々と自然災害による被害

を受けました。被災地の方々にお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧・復興を願つておる次第です。

今年は、平成天皇がご退位なさり、新天皇がご即位なさる年ですので、平穏な日々になることを祈念している次第です。

昨年の臨時国会では、早速熱中症対策として空調設備の充実やブロッコ堀等の倒壊防止対策などの補正予算が計上されました。遅きに失した感は免れませんが、要望が実つたと思えます。

次代を担う子供たちの健やかな成長を願ひ、良質な学校教育が受けられるようにすることは私たちの責務です。高い水準の豊かな教育の実現には、教職員の質の向上と数の充実が不可欠です。働き方改革にも努力をしなければなりません。

新学習指導要領の実施を見据え教職員の指導・運営体制の充

実を強く推進しなければと考えます。小学校における専科指導の充実や中学校における生徒指導体制の強化など教職員の定数の改善を進める必要があります。一方教員以外の人材活用と業務改善を推進し、チーム学校が機能する体制の整備にも配慮して行く必要を感じます。また教職員の事務作業や副校長・教頭を補助するスタッフ、部活動指導員の配置促進を進めることなどの支援を、今後も継続的に行うことが求められています。

就職希望者が、教職を敬遠する傾向が見られると言われますが残念なことです。意欲と情熱をもって教育に取り組む優れた教職員を確保するため、「人材確保法」の趣旨を踏まえた措置と共に、教育の機会均等とその水準の維持向上を図るため、その根幹となる「義務教育費国庫負担制度」を堅持することが重要になると思ひます。

教育投資は、未来の日本への先行投資ですから、国の最重要事項として、考えなければならぬと思ひます。



生きがいを創造するために

副会長（北海道）永峰 貴

「校長先生って、そんなにプライドが高いものですか？」

還暦を迎えた教え子からこんな質問を受けた。義父が退職校長で、やめ暮らしなのだそう。けれど、他人の世話になることを極度に嫌うのだそうである。プライドがそれを許さないということらしい。

信長の時代と比べて2倍となる人生百年時代にならんとする今日、「いかに有感謝と生きがいのある生き方を創造するか」が大きな課題となってきた。会員の福祉と親睦を掲げる本会としても、このことに留意した活動が必要となってきたといえる。

場の設定1

親睦の場の活用
会員であるか否かにかかわらず

ず懇親会に誘って、共にあることの喜びを思い起こしていただく。そうすることで、新たな生きがいを創造できるかもしれない。本会の新年交礼会が、校長退職者全てに呼び掛けているのも、そんな意図があつてのことである。元気であるうちは、引き籠もらずに生産的でありたいのである。

場の設定2

知的好奇心を満足させる場

教員とは、知的好奇心の旺盛な人の集団であると言つて過言でない。そして、退職後も自分なりの課題を追求し続けている人が大勢いる。が、その成果を発表する場がほとんどない。そこで、支部の活動に研修の場を設けて講師を依頼するとか、教育支援活動での役割を担つていただくとか、支部の会報に論文掲載のスペースを意図的に設けたりするのである。こうした発表の場を設けることが、研究成果を眠ったままにすることもなく、生きがいを創造することになると思ふからである。

学校の教育遺産を生かす

—退職校長会の一活動—

副会長（九州地区）石塚 勝郎

本県退職校長会の教育支援活動として、生涯学習部を中心に

- ① 基礎学力の向上
 - ② 授業支援
 - ③ 地域や家庭の教育力の向上
 - ④ 児童生徒の安心安全の確保
 - ⑤ 環境美化
- などの取組を推進している。

12支部の1つH支部が、「学校への哀惜の思いを持ち続けるきっかけに」と呼びかけ、学校に眠る教育遺産について、現職校長や地域の協力を得ながら、3年間にわたつて調査し、資料を収集してきた。昨年は、その一部を冊子にまとめたが、今年は、自分たちの趣味・特技、活動や仕事などを生かした作品展と併わせて、収集した教育遺産を一堂に展示し、大きな反響をよんだ。

学校が、授業の初めや終わりの合図に使っていた鐘、著名人が贈つた色紙や額、郷土の大先輩の揮毫による書、閉校になつた学校の校旗や校歌などの資料である。過疎化や市町合併等に伴つて児童生徒数が減少し、学校の統廃合が進み、H支部でも展示対象校約80校のうち、15校は既に閉校しており、ここ数年の間に統廃合が予定されている学校もある。

そのような中、これまでそれぞれの学校教育で大きな力を発揮してきたであろう貴重な教育遺産が、散逸・消失するのを防ぐとする取組は、意義深いものである。「学校は消えても素晴らしい歴史や教育の成果は永遠に続く」という活動は尊いと、地元報道紙でも高く評価された。県退職校長会としては、H支部の活動を皮切りに、県全体の活動としてやれないか検討しているところである。

全国校園長会長より



新学習指導要領の理念の実現

全国連合小学校長会

会長 種村 明頼

昨年、地震や台風等の自然災害により、多くの被害が発生しました。ここに謹んで亡くなられた方々とご遺族に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様にも心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年、文部科学省より Society 5.0 に向けた教育の在り方等についての報告書が示されました。Society 5.0 とは、人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会に取り入れられている社会のことです。

このような社会において、義務教育に求められるのは、常に行の最先端の知識を追いかけるのではなく、むしろ、学びの基盤を固めることであると示しています。すなわち、新学習指導要領を着実に実施し、基礎的読解力、数学的思考力などの基盤的な学力や情報活用能力を、すべての児童生徒が習得できるようにすることです。

Society 5.0 が間もなく到来し、それに即応した学校教育を展開する必要があります。

しかし、今は、報告書にも示されているとおり、Society 5.0 の姿をしっかりと見据えつつ、決して浮足立つことなく着実に新学習指導要領の理念の実現がとても大切であると考えます。

そのため、「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業の充実・改善等を図り、児童生徒一人一人に生涯にわたって能動的に学べるアクティブラーナーとなるよう教育活動を推進してまいります。

今後もご指導の程よろしくお願い申し上げます。



時代が大きく変わる中

全日本中学校長会

会長 山本 聖志

あけましておめでとうございます。日頃より全日中へのご支援を賜り、深く感謝いたしております。本年も皆様にとつてよき一年となりますことを心より祈念申し上げます。

昨年度は、10年に一度となる東京大会を無事終えることが出来ました。その折に取りまとめた記念誌「中学校教育七十年」には、戦後の学校教育の様子が次のように記されています。

昭和24年の文部省調査によれば、当時、二部・三部授業を実施している教室が全国で2000余にのぼっており、講堂の間仕切りや物置などの代用がそれぞれ3000教室。生徒数も一

つの教室に50人以上は当たり前で昭和27年に義務教育費国庫負担法が制定され、ようやく教職員の給与と共に施設や設備、教材等が補助されることとなりました。これまで長きにわたり、中学校教育の充実にご尽力をいただいた全国連合退職校長会の皆様をはじめ諸先輩や教育関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

今年は、天皇陛下の御退位並びに新天皇の御即位に伴う改元も予定されており時代が大きく変化を遂げようとしています。

日本で開催されるラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックも目前に迫っています。教育界にあっても、新学習指導要領の全面实施を間近に控え、各学校は準備に余念のないところです。

この重大な節目にあつて、私たち全日中も改めて果たすべき役割の大きさを自覚してまいりたいと存じます。全連退の皆様におかれましては、本年もどうぞよろしくご指導いただきますようお願いいたします。



全国特別支援学校長会
会長 桑山 一也

共生社会の形成に向けて

全国連合退職校長会会員の皆様には、長年にわたり学校運営の責任者として、学校教育の充実・発展のために多大な貢献をされ、現在もなお教育界の先達として御尽力いただいていることに対し、心から敬意と感謝の意を表します。

平成23年の障害者基本法の改正、26年の障害者権利条約の批准、そして、28年4月の障害者差別解消法施行へと、「共生社会」の形成に向けた環境が整ってまいりました。

障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶことができる「インクルーシブ教育システム」の構築の理念は、全ての子供にとって持てる力を最大限に発揮

し、自己実現を図るために極めて重要な意味をもちます。

学習指導要領の改訂に伴い、社会のニーズや教育現場の課題に柔軟かつ迅速に対応しながら障害のある子供一人一人の教育的ニーズに応じた教育の実現に貢献することをミッションとしている本会が果たすべき役割は、これまで以上に重要であると考

えています。本会は、関係諸機関との連携を更に拡大・深化させ、「校長の学校経営に資する調査・研究」「インクルーシブ教育システムの構築を意図した情報発信」「特別支援教育の推進に向けた施策の提言」「2020東京オリンピック・パラリンピック競技会後にもつながる、障害のある子供のスポーツ・文化的活動の発信」など、本会の「基盤となる取組」を力強く推進していく所存でございます。

特別支援教育の更なる発展のために、全国連合退職校長会の一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。



四国地区

期日 10月3日(水)
会場 マリンパレスさぬき
出席者 16名

一、本部情報・講話

全連退常任理事藤崎武利様から、新学習指導要領下での教育内容の主な改善事項、とりわけ外国語教育の充実等のポイントについて、学校現場の実態を踏まえながら講話があった。また、資料に基づき、初等中等教育局新年度概算要求主要事項の情報提供もあった。

二、協議内容

退職者の生活・意識に変化が見られる中で、新入会員勧誘の実態や加入率をあげる工夫、総会や研修旅行等への出席を促す効果的な内容、その他、会の活性化や会員の親睦を図る取組の紹介等、なごやかに情報交換が

なされた。また、会員資格や事業経費負担の実態、事務局員の確保にまで話が及んだ。

会員数減少・経費節減の中で魅力ある活動をめざすことの重要性の確認、「四国地区会報」の編集計画の共通理解をもって、協議・情報交換は幕を閉じた。

その後の懇親会では、各県の魅力ある研修地や役員の苦労話も出され、親睦が深まった。次年度は愛媛県が当番である。さらに活性化のヒントが得られる場になることを期待したい。



東北地区

期 日 30年10月18・19日
会 場 秋田ビューホテル
出席者 98名

錦秋の秋田市において「第46回東北地区退職校長会協議会秋田大会」が開催された。

講演は、全連退常任理事三上裕三氏で、「当面する全連退の活動について」という題で行われた。文部行政の施策の紹介をしながら、カタカナ用語が多く、理解しにくいものが多いことが指摘された。加えて、会員の減少は本部も各県においても重要な問題になってきたと語った。

【研究協議】

「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」

昔から「東北はひとつ」と言われてきた。東日本大震災から7年半、復興への努力はまだ続いている。そんな中でも、東北の絆は質的に高まってきている。

①会員の「生きざま」を表現した協議題で語り合う東北の仲間たち

②「生きがい観」を大事にした研修活動
③柔軟なフットワーク（連携）に支えられた組織力などが確認されている。

《福島県》「さらなる復興を目指すして」双葉地区の会員は、依然として88%が避難中。学校はできて、子どもたちが戻ってこない。引き続き支援を。

《宮城県》「幼・小・中・地域・行政の連携によるシンポジウムの実践を通して」不易と流行を踏まえての教育懇談会が効果を上げています。

《山形県》「いかに活動を進めて行くか」参加人数の減少が気になるが、関わりを大切にし、魅力的な活動を展開する。本会の存在の意義を果たす。

【情報交換】

各県において「会員減」が深刻な問題となつてきていることに鑑み、本部においても、出版事業を縮小するなどの大胆な経費削減をお願いする等の声があった。

関東甲信越地区

期 日 30年10月18・19日
会 場 東京ガーデンパレス
出席者 103名
(文京区)

東京大会は「絆を深め、伸びゆく退職校長会を目指して」――生き甲斐づくりに貢献する事業の在り方――をテーマに大会が開催された。開会式では、主催者側が多田丈夫東京都退職校長会長の歓迎の挨拶に始まり、来賓の東京都教育委員会教育長、

文京区長、全連退会長、東京都中学校長会会長の4氏から祝辞を頂いた。続いて、初日は、研究協議会、記念撮影、懇親会。2日目は、基調講演会、昼食会、閉会式と大会が進行した。

【協議題と検討事項】

協議題は、「本部と支部との一体化」と「関係諸団体との連携」の共通課題2つを設定した。この課題を通じて、各県の実情

を詳らかにし、将来に向けた「伸びゆく退職校長会」の在り方を模索することを期待した。

研究協議会は、各都県の発表に続き、課題1の「本部と支部との一体化」では、主に定年後の再任用や再雇用制度の導入による入会率の低下や高齢化による

支部組織の存続・維持の困難化が問題視された。課題2の「関係諸団体との連携」では、特に現職校長会とのさらなる連携・支援の強化が指摘され、今後の改善の必要性を各都県が共有した。

【基調講演】

2日目の基調講演では、「東京五輪を契機として、学校教育に期待すること」を演題に、前東京都教育庁教育監・東京女子体育大学教授 出張吉訓先生の講話を拝聴した。今から迎える

東京五輪を様々な角度から分析された格調高い講演会だった。すべての大会参加者に感謝し、報告といたします。



「彩の国教育の日」協賛 現職・退職校長教育推進協議会

埼玉県退職校長会

会長 石田 孝作

埼玉県退職校長会は、現在、県内10支部57班により組織され、会員数も3700人を超える全国でも有数な組織となりました。定期総会を年に1回、代議員制をとり、県内4地区にて持ち回りで開催、また、支部長会、理事会を定期的に開き、本部と支部、支部間相互の連携を図りながら会の円滑な運営に努めております。

本年前期の最終の活動状況としましては、本部の専門部・福利厚生部担当による「囲碁大会」、「ゴルフ大会」が終了し、「会員相互の親睦」という大きな成果を上げました。これを機に「理事会」を開催し、本年度の前期のまとめと後期に向けて

の事業の方向が確認されました。ここでは、現在、取り組んでいる事業「彩の国教育の日」の協賛と現職・退職校長支部別教育推進協議会の開催についてその状況を紹介いたします。

2003年1月、埼玉県は「彩の国教育の日」を定める要綱を発表、11月1日を「彩の国教育の日」と制定いたしました。県退職校長会は、この趣旨の実現に向けて、従来、各支部で行われていた教育推進協議会を「教育の日」の協賛事業として再出発しました。

今年も11月を中心に、各支部では、現職校長と退職校長が一堂に会し、当該教育委員会関係者PTA関係者、県退職校長会正副会長等を交えて、提案・発表をもとに熱心な研究協議が行われております。例年、全県での参加者は1000人に及びます。11月9日現在、秩父、さいたま市、北足立北部、大里、入間、比企の6支部で、すでに実施され、小・中の現職校長代表、退職校長代表の提案を基に熱心な研究協議が進められました。

新たな学校教育 支援の取組

福井県退職校長会

会長 西 輝昭

平成25年度から取り組んできた学校教育支援ボランティア登録の状況は、近年、年度末退職校長者のみに登録の申込みを募っていることから、追加の登録申込者は数名のみである。現在、44名が登録されている。

そんな状況の中、かねてより常任理事会では、中学生の「税についての作文」審査の協力についての話題が出されていた。

平成29年度にも、県納税貯蓄組合長から中学生の「税についての作文」審査の依頼があった。検討の結果、特定の方に審査をお願いするのではなく、会長以下24名の常任理事会のメンバー全員が審査することに意義があるものと捉え、一次審査を引き受けた。

審査は、一人あたり15編程の作文を自宅審査した。構成・独

創性・共感・理解度の四つの審査項目についての内容審査で、配点は各10点満点での評価をつけ、それらを合計して評価していった。

メンバー全員が作文の審査に慣れている訳ではなく、多少苦労はしたものの審査を終え、この審査を通して、学校現場に対して、わずかではあるが、教育支援ができたのではないかと感じる事ができた。

この取組について、5月の定例総会で、本会の役員も学校教育支援ボランティアに関与していることを報告した。

平成30年度、新たに常任理事会のメンバーになった者もいるが、2回目の実施ということでの審査が定着したように思われる。

関係当局からは、次年度以降も継続してお願いしたいとの声をいただいた。本会のこの取組が評価され、ほんの少し社会貢献に繋がったのではないかと自負している。

第9回事務局長会報告

日時 平成30年9月25日(火)
11時～15時

場所 きゅりあん(品川区立
総合区民会館)

出席者 全国連合退職校長会
長・副会長・監事・部
長・委員長・事務局長
・事務局職員21名・都
道府県退職校長会事務
局長47名。



司会進行 総務部長 田中昭光

開会に先立ち、北海道の永峰
貴会長より、北海道地震の報告
と見舞へのお礼の言葉があった。

一 開会の辞

副会長 片山智成

二 会長挨拶

会長 入子祐三

各都道府県退職校長会の事務
局長の皆様にお集まりいただき、
ありがとうございます。

この夏を振り返ってみますと、
厳しい暑さが続き、各地で地震
や豪雨災害が発生しました。地
域の皆さんの一日も早い復旧・
復興を願う次第です。

本日は、午前、午後の部に
協力いただき、意義のある会
にさせていただきましたようお願い
申し上げます。

三 報告事項・依頼事項

1 「平成30年度全国連合退職
校長会の概要」田中総務部長

2 「3省に対する要望書」藤

崎総務部員・岡野生涯福祉部
長(会報209号参照)

3 文部科学省・初中局長との
教育懇談会 田中総務部長
(会報210号参照)

4 各部・委員会の活動状況及
び依頼事項について

(1) 総務部 省略
(2) 教育振興部

「教育の日」の調査は、11
月30日が締め切り日です。

「学校週5日制の現状とこ
れからの方向性」について
の調査結果を現在まとめて
います。

(3) 生涯福祉部

・米寿者・上寿者の調査は7
月末で締め切りました。叙
勲受章者の調査は9月末日
までです。

(4) 広報部

・それぞれの県で発行された
会報を本部にも1部送って
いただきたい。

(5) 会計部

・現在55団体中51団体から会
費を納入していただきました。
た。

・財務状況検討会議を継続し、
事業の見直しを検討してい
ます。

(6) 教育課題委員会

・子供たちが意欲を持って学
習に取り組むための教育環
境はどうあればいいのか検
討しているところです。

(7) 出版事業委員会

・今年3月末に教育図書「心
を育む学校の力」を出版し
ました。

・本書についての書評が全連
退ホームページに載ってい
ます。

〈質疑応答〉

○福岡県小学校 教師の日の制
定と教育の日の制定の整合性を
どうするのか。教育の日の制定
が望ましいという立場を堅持し
ていく根拠を確立するべきです。
○教育振興部長 「教育の日」

は国民こそって子供の教育を考
えることなのです。そのことを
明文化していく必要があると考
えます。

○青森県 昨年、教育新聞に関
わって各県の活動状況の原稿を
依頼されて送付したのですが、
その後掲載の様子が見られない。
どうなっているのですか。
○会長 教育新聞社と連絡を取
り、事情を確認いたします。

—— 昼食・休憩 ——

四 グループ別話し合い

1 共通話題

(1) 会員の絆を大切にし、会員相
互の生きがいを支援する実践
事例について

(2) 事務局が抱えている課題、本
部への要望について

2 各グループごとの話し合い

8グループに分かれて話し合
う。今年もいろいろな地区が混
ざり合って構成された。(例A
グループ秋田、群馬、神奈川、

石川、大阪、熊本)

3 全体会(各グループの話し
合いの報告)

Aグループ

・校長は知的好奇心が旺盛なの
で、趣味を含めて多分野にわた
って活躍している。・会員の減
少をどう食い止めるかというこ
とに関して現職との懇親会や協
議会を設置している県が多かつ
た。・現職とのつながりをどう
するか。ある県では、会則を変
更して現職校長を準会員にする
という努力をしている。・現職
にも会報等を配布して退職校長

会の流れを理解してもらおうよう
努力している。・支部活動を活
発にしてくれるようお願いして
いる。

Bグループ

・県全体で活動することはなか
なか難しいのだが、支部で活躍
する場合は比較的絆が深まって
いくのではないか。・支部で県

の行事を担当して行う場合、そ
れをローテーションすることに
よって絆が深まる。・現職校長
の元気が出るような、励ますよ
うな、エネルギーがわいてくる
ような接し方を心掛けてみると、
相手も積極的に接してくる。・
退職校長会として退職校長でま
だまだ働きたい人がいる場合に、
行政に働きかけていくことが大
事だ。・事務局関係で、メール
は郵便や宅急便と比べて、すぐ
に伝わるし、お金もかからない
ので、その体制を整備していく
ことは大事だ。

Cグループ

・会員の絆を大切にし、会員相
互の生きがいを支援するには、
会報の内容の充実が一番大事だ。
・特につながりを深めるために

は、会員の近況を会報に掲載す
ることが大事だ。定期的に掲載
してつながりを深めている。・
高齢者が増えてきて免除したた
めに会費納入が減ってきて、予



算の執行が難しくなってきた
る。・各県で行っている教育懇
談会は、行政とのつながりも
ちろん大事だが、現職の校長・
教頭も参加することが重要だ。

・事務局の実態をアンケートをとって調べてほしい。・ネット改善の話もあったが、高齢化しているところは対応できず、手紙やファックスでしか交流できない。

Dグループ

・会員数の減少、入会率の減少はこの県でもいえる。・本部が支部の活動を援助する形はどこも行っている。・ユニークな活動としては、ホームページに掲載するので、各支部の自慢することがあったら、提出してほしいと呼び掛けている県がある。・事務局については、部屋はあるが間借りしているとか自宅が事務局だということがあり、大きな課題がある。

Eグループ

・会報は、会員の絆にもつながるし、情報交換や生きがいにもつながっている。・会報を現職のところに持参して、勧誘につ

なげているところが多くあった。・学校関係の支援に関わって、現職と話し合い、どういうことを願っているのかを押さえて、支援の過程の中で加入につながっている。・事務局関係で一番大変なことは、財政が次第に苦しくなってきたことだ。・地区への補助金を減額するとか、祝金をなくすとか苦労している。

Fグループ

・会費はできる限り値上げをしないで、予算を工面している。60歳で定年後の人を、65歳までは減免措置をとり、加入を促進する形をとっているところもある。・それぞれの県で独自の郷土自慢を広報に取り上げ、啓発を図る。・会員が生きがいを持つような企画をして、会を運営していくことが必要だ。・事務局の後継者問題は大きな課題だ。先輩から引き継いだものを継続してくれる人選を丁寧に行っていく必要がある。・ファイ

Gグループ

・教育の日の前後の土曜日を県の教育の日の集いとして実践している。・教育月間として活動している。・教育の日の活動を広めるために、学校の現場への働きかけをしているが、現職の校長からは新しい事業を取り入れることに抵抗があつて、難しい。・現有会員については、会費免除会員がこれから増えるという問題が出された。・ある県では、会費免除会員から協力金をもろうことにしたところ、65%の協力があつた。

Hグループ

・現職校長が退職校長会の準会員になっていて、うまくつな

る。・現職の校長会の最後の方で、退職校長会の会長が、意義や取組を説明して、入会を促している。・会報を現職校長にも配って、メリットなどを説明している。・若い人の中には、組織の中で活動することは嫌だという人もいる。・総会の参加者を増やすために、講演を工夫している。・65歳で再度入会を働きかけるところもあり、声をかければ入会する人もいる。

4 会長のまとめ

各グループとも熱心にご協議いただき、記録係の方がそれぞれのグループの様子を発表していただき、ありがとうございました。今お聞きしたことを部長会等で検討し、生かせるものは生かしていきたいと思えます。

五 閉会の辞

副会長 鷲尾 実

文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当）
下間康行氏の教育行政の説明と懇談会

一日時

平成30年8月22日（水）午後
1時30分より2時40分まで

二会場

文部科学省内 会議室

三出席者

- ◎大臣官房審議官 下間康行氏しもつま
- 全連退入子祐三会長、総務部
員・埼玉県会長石田孝作、各
部長・委員長
- 全国退職女性校長会会長福田
勅子他3名、全国教育女性連
盟会長白鳥恵子他2名

四教育行政の説明と懇談会

司会

全連退総務部長 田中昭光

1 下間審議官の教育行政の説明

ソサエティ5.0

ソサエティ5.0というのは、
1.0から順番に狩猟社会、2.0が



農耕社会、3.0が工業社会で、
今は4.0で情報社会といわれて
います。それがさらにAI技術
が発達し、人工知能が、人
が行ってきたものを大々でき
る時代をソサエティ5.0とい
います。

ソサエティ5.0の時代に共通
して求められる力とは何で
しょうか。それは、文章や情
報を正確に読み解き対話する
力とか、科学的に考えて吟味
する価値を見つけて出す感性

の力、好奇心・探究力など
です。そういうものを共通して
持つ人たちがこれからの技
術革新と社会課題をつなげ、
社会の基盤になるような仕組
みを創造していくことができ
る人材です。それを共通して
求めるにはどうするのでしょ
うか。それは、基礎的な学力
を確実に定着させながら、他
者と協働しつつ自ら考え抜く
自立した学びができるように
していくことです。これは、
新学習指導要領においても基
本的な考え方なのです。

そこで、基礎的読解力、数
学的思考力などの基礎的な学
力や情報活用能力の習得が大
事になります。その中で、情
報を使いこなすためには、A
Iの仕組みとか情報がどのよ
うにして成り立っているのか
についての基本的な知識は持
たなければなりません。

デジタル教科書

先の通常国会で、学校教育

法の改正が行われ、紙の教科
書に代えてデジタル教科書を
使用することができるように
なりました。今、教科書は無
償配布しています。今是有償
ですが、デジタル教科書もや
がて無償で授与されるべきだ
という議論が出てくるかもし
れません。今は教科書と全く
同じ内容を電磁的に記録する
という中身ですが、拡大や縮
小ができ、マーカーを簡単に
入れたりが消したりできて、音
声読み上げソフトを使うと教
科書を読み上げてくれたりし
ます。また、インターネット
を通じて実際の絵とか資料を
さまざまなサイトから引用す
るとか、副教材的なドリルを
すぐに引き出すことができま
す。

ICT環境の整備

学校のICT環境整備の状
況は、地域差が顕著です。そ
の中で、昨年12月に文科省で
も整備方針を定めていて、大

型提示装置（電子黒板・プロジェクタ）と授業展開に

必要な時に1人1台のパソコンを3クラスに1クラス分程度整備する予定です。教育のICT化における環境整備5か年計画に必要な経費については、2018年度から2022年度まで地方財政措置を講じることとしています。

各自自治体においては新学習指導要領の全面实施に向け、ICT環境整備方針及び地方財政措置を踏まえて、学校のICT環境整備に係る経費を予算化し、整備を進めていくことが喫緊の課題です。

次世代の学校・地域創生プラン（平成28年1月文部科学大臣決定）において、一番大事なことは次世代の学校の創生に必要な不可欠な教職員定数の戦略的充実ということです。義務標準法を改正しましたが、これからも予算をしっかりと確保していかなければならないのです。

学習指導要領の改訂

学習指導要領改訂の考え方の中で、これからの教育理念は社会に開かれた教育課程です。それを説明するときに、3つの点について重点を置きます。1つ目は、何ができるようになるかということを中心とした改訂であることを重視しています。アクティブ・ラーニングについてのイメージでは、主体的で対話的な命題はほとんどの教室で行われています。課題は深い学びです。深い学びとは、習得・活用・探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたりすることが実現できているかということとです。2つ目は、カリキュラム・マネジメントが大事です。どう効率的・効果的に割り振り、学ばせていくのかマネジメントが必要なの

です。教師が全ての問題に取り組んでは大変なので、地域や外部の人材資源を活用しながら、効果的にマネジメントを行っていく必要があります。3つ目は新学習指導要領の下での資質・能力の確実な育成ということ、言語能力の育成、外国語教育の充実、プログラミング教育の充実を、小学校、中学校、高校まで必修にするということです。理数教育の充実、言語能力・情報活用能力の育成にはそれなりの条件整備が必要です。情報活用能力においては段階に応じて論理的に構成する力をつけていきます。プログラミングを体験すると、コンピュータに自分の意図を理解させて、動かすためにはどういうことを指示していけばいいのか、段階を追って移動していかなければならないので、（こういうことをプログラミング思考という）段階的に身に付けるようにします。

それから、教科としての外国語教育を小学校としても取り入れていくことに伴って、中学校・高校とも外国語教育の英語教育は言語活動目標に向けて改善を図っていきます。小学校における外国語教育の指導体制については、それを担ううえで学級担任がこれを行っていきませんが、指導力以前に英語力が不安という声が多い中で、中核になるような専科教員が必要になります。多くの教員が不安だというのですが、こちらから教材とか指導資料をいろいろ示すと、「こういう段階を追って順に取り組んでいくのであれば、できそうかな」という教員も増えてきています。

道徳の教科化

道徳における考えは「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育への転換により児童生徒の道徳性を育

むということです。教科書を主たる教材として使う特別の教科としての道徳の中で、子供たちに書かせたりすると、子供たちで議論するところまではたどり着かないという声も上がっています。評価も含めて途上かなと思います。

働き方改革

小学校で3割、中学校では6割の教員が1週間当たり学内総勤務時間が60時間を上回っているという事は、週40時間労働ですから、20時間を超しているわけです。月に80時間以上時間外勤務をしていることになり、非常に深刻な状況にあります。

労働基準法の勤務時間管理の部分は、地方公務員である公立小中学校の教員にも適用されていますから、勤務時間管理を校長はしなくていいのではないのです。ただ超勤に時間外勤務手当を支給するという仕組みの部分が給特法で

除かれているだけなのです。勤務時間管理はこれまででもやらなくてはいけないかったのですが、インセンティブ（目標への意欲を高める刺激）が働かなかったという中で、勤務時間管理を徹底してもらいます。そのためのガイドラインの提示を行います。

教師の資質向上について

採用した教師について、学び続けるモチベーションを維持できるような環境整備の下、研修の確保が大事なので、段階を追って現職研修を充実していくことが平成27年当時の方針でした。それを受けて平成29年に教育公務員特例法が改正され、任命権者である都道府県教育委員会において管理職・教員の資質の向上の指標を作成し、それについて体系的な教員研修計画を定めることになりました。それを定めるうえで大学も一緒になって取り組んでいきます。

都道府県教委は、教員の資質向上に関する指標や研修計画を今年3月までに策定しました。今はそれに基づいて現実的に取り組み始めているところです。教員の資質・能力を育成できる研修体系を整備していくことがそれぞれの自治体に課されているのです。

学校安全の推進

「第2次学校安全の推進に関する計画について」を平成29年3月24日に閣議決定し、29年4月から34年3月まで推進するという事で取り組まれています。学校での取組には安全管理と安全教育の二つがあり、しっかり取り組んでいく必要があります。その際、学校の中だけでなく、地域と連携した組織的な活動が必要です。

今年7月に政府として「登下校防犯プランの概要」を策定しました。その中で、学校や地域が取り組むだけではな

く、警察も協力して取り組み事を強調しています。文部科学省として特に取り組むことは通学路の緊急合同点検の徹底です。学校、教育委員会が危険個所の共有、環境整備などを地域と一緒にやっていきます。また、見守り活動の活性化、不審者情報の共有、防犯教育の充実、登下校の安全確保策の共有などがあります。

文部科学省は「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」を策定しました。地震の際の基本行動は「上から物が落ちてこない」「横から倒れてこない」「物が移動してこない」ところに避難できるように、日常的にそこを点検し、子供たちが避難行動がとれるようにしていきます。

学校と地域の連携・協働について
地域が学校と協働できる仕組みを作っていくために、地域学校協働活動を推進し、地

域が責任を持って学校経営に取り組み組織運営体制作りをしていきます。できればコミユニティ・スクールの仕組みの方法を取り入れます。コミユニティ・スクールになった学校では、校長が学校運営協議会において学校運営の基本方針について説明し、学校運営や教育活動について意見を求める。学校運営協議会は、保護者や地域住民からの意見を吸い上げて、必要な情報提供を行ったうえで、設置者である市区町村教育委員会や任命権者である都道府県教育委員会に対して、必要な意見を述べるができる、ということが法律上の仕組みなのです。

学校運営協議会は教育委員会が学校に設置するので、校長の関与についてこれまで規程がなかったところ、校長が意見申出を行えることとしたのです。

コミユニティ・スクールの

導入状況は、平成30年4月で5432校になりました。最近は高校が増えていきます。商業高校や工業高校など専門高校を中心に、地域の産業を担う人材を高校レベルで地域と一緒に育て育て送り出すことに目を向ける首長や教育長が出てきています。

2 質疑応答

○橋本教育課題委員長

特に小学校でいえるのが、新しい教科が増え、内容がかなり増えてきています。制度的、条件的に方向性はあるのでしょいか。

◎下間審議官

学校週5日制の中で授業時数をどう確保するか現場で悩んでいることは承知しています。特に小学校において持ちゴマ数をどう減らすかは、私たちが取り組むべきことだと思っております。暫定的な措置として、小学校で英語に取り組み場合には総合的な時間を

当てることによって時間を生み出すことを考えています。2020年の実施に向けて、授業時数そのものを弾力化できないか検討しています。また、現場の教員の苦勞を仕組みとして減らせることはないかと教育課程課や管理担当課を中心に検討しています。

○田中総務部長

若手教師に関することで話題になっていことがあれば教えてください。

◎下間審議官

素晴らしい職業である教師という職業に、意欲ある若い人たちが望んできてもらえる環境を作らなければならぬということが局内の大前提です。若手教師に対する取組として、教職員研修センターのオンライン講座に力を入れたり、放送大学と一緒に講座を開設します(外国語・情報・プログラミング等)。インターネットを通じて好きな時に好きな講座をひいてい

ける形にする(オンデマンド)ことができるよう、再来年には実現していく形で取り組んでいます。

○入子会長

今日はお忙しい中を、私たちのために時間をお作りいただき、熱心にお話しくださいます。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。



懇談会出席者一同

地方の会報紙より



野菜と果樹に出会い、子どもと自然の恵みを交流

大分市 植木 義章

(大分県退職校長会 「会報」第165号)

子ども達は、野菜や果物を育てる地域の人との出会いから自然環境保存の基礎を学ぶ。

「自然生態を知る」

人間は自然の恩恵や制約を受けながら、いろいろ工夫し、生活している。人間は自然形態の中に位置づいているので自然を破壊してはいけない。

「食糧資源を知る」

人間にとって食糧は欠くことのできないものであり、農民は自然との関わりの中で食糧増産のために努力、工夫している。農産物のバランスの取れた需給は、人々に安定した生活を保障

する。

私が子どもの頃は、水田で米麦を作り、畑では野菜を育て、ほぼ自給自足できていた。

それが今では水田は皆無となり、野菜畑も見られない。

小学二年の九十人近くの子ども達が、毎年私の畑に見学に来る。日頃口にしてる野菜や果物の畑をめぐり、さまざまな発見をする。

その中の一人、広田さんの作文を紹介する。

「町たんけん」の時に、畑のやさいやくだものを見て、わたしは、くりの外のところに、とげのないくりもあるんだということをはじめて知りました。うえ木先生が教えてくださったおかげで、はじめて見たり知ったりしたやさいやくだものもたくさんありました。すももがあまずっぱくてとてもおいしかったです。先生の畑になっているくだものやたくさんのやさいななどを見せてくださってありがとうございます。畑でおべんきょう

ができてとてもうれしかったし、たのしかったです。また、先生の畑でおべんきょうしたいです。」

手紙

市原市 藤澤 忠男

(千葉県退職校長会 「会報」第83号)



終活の流れに急かされたわけではないが、古希を越えてから身の回りの整理を始めている。

この間は、引き出しから古い父からの手紙の束を見つけた。どの便りも、親元を遠く離れて学生生活を送る私を案ずる言葉で溢れていた。読んでいるうちに暇が熱くなった。父は、六十才で旅立った。高齢だし、余命も宣言されて覚悟はしていたので、悲しかったが涙を流すことはなかった。無口で厳格な父

だった。私は、仕送りが届くとすぐに近況を報告する返事を投

函したのだった。父の手紙で、私は青春の日々と父の無骨な愛情を思い出し、思い切り泣いた。だれもが携帯電話をもつ時代になった。手紙を書くことも受け取ることも希になった。たしかにメールは便利な道具である。手紙のように小難しい約束事があるわけでもなく親しい間柄なら、絵文字も流行り言葉も自由自在である。

だが私は、この時ばかりはいい知れぬ淋しさを味わったのだ。遠方に住む友人の奥さんが亡くなったので、私は香料とともに、言葉を選び幾度も書き直してお悔やみと励ましの手紙を送った。ほどなく友人から礼が届いたが、なんとショートメールだったのだ。

近頃の作家は、原稿はワープロ、手紙はメールというのがほとんどだという。各地の文学館などには、故人となったいろいろな作家の、推敲の跡も生々しい手書きの原稿が展示されている。また恋人や友人宛の手紙な

どもあつて、作品とは違った作家の人物が偲ばれて頬が緩むのである。だがこれからの人物にふれるよすががないとなると、

これまた味気ないことであろう。もう、辞書を片手に頭をひねって言葉紡ぐ世の中ではないのだ。携帯とメールがすみやかに用件を伝達してくれるのだ。恋文はもちろんラブレターという語句も間もなく消えていくに違いない。

とはいえ、私は家族や友人を思い浮かべながら手紙を書いたあの日、返事を待ち侘びて何度も郵便受けを覗いたあの頃がたまらなく懐かしくなるのである。

とはいえ、私は家族や友人を思い浮かべながら手紙を書いたあの日、返事を待ち侘びて何度も郵便受けを覗いたあの頃がたまらなく懐かしくなるのである。



ノータタツク

ノーチャンス

笠間支部 平澤 浩子

(茨城県退職校長会「会報」第109号)

「タワーこちらツーエイト

ツーフォーよりファイナルアップローチ」

高度、速度、目視。緊張の瞬間。ウルトラライトプレーン(超軽量動力機)の着陸である。ウルトラライトプレーンに出

会って13年になる。「きっかけは？」とよく聞かれる。教員になつて間もない頃に算数科教育の研修に参加した。そのときの資料に表紙がパラグライダーで

飛んでいる講師自身の写真だった。驚きと同時に「私も飛んでみたい。」と思つた。

この気持ちがずっと心の奥底にあり、十数年後に体験パラグライダースクールで空を飛び、

体が浮くという気持ちよさを味わつた。

その後、自宅近くにウルトラライトプレーン飛行場があることを知つた。タイヤがありエンジンで滑走し空を飛ぶ。「自転車が乗れば飛べる。」と聞き、

深く考えずに練習生になつたが、簡単なものではなかつた。着陸

が難しい。周りの景色が流れ、地面が迫ってくるのだ。「ソロ

に出るには、100%完璧でなければならぬ。」「プラクティス

メイクス パーフェクト」操縦指導者のことばである。イメー

ジトレニング、模擬体験、同乗飛行等あらゆる方法での訓練。「どうすれば分かるか」「どう

すればできるか」指導法を常に考えていると聞いた。教師が子どもに接するのと同じである。

ソロフライトができ、空の楽

しさを味わえるようになった。だが自然は侮れない。風、上昇

気流・下降気流、気温など同じ日はない。鳥のように俯瞰できたらと思う日々である。



翼端 カメラで自撮り

飛行仲間は、職業も年齢も様々で幅の広い会話ができるのも楽しい。

「ノータタツク ノーチャンス」昨年インデイ500で優勝した元F1レーサーの佐藤琢磨氏のことばである。今まで「いいなあ」「やりたいなあ」と思っていたことが、思いきりよく踏み

出せるようになった。スカイダイビングやバンジージャンプもチャレンジした。

これからも「ノータタツク ノーチャンス」の気持ちで、

日々楽しんでいきたい。



五反田だより

子供たちが巣立つ社会は情報社会が一層進展し産業構造が大きく変化することが予測される。単に情報や情報技術を受け身に捉えるだけでなく、子供たちには手段として活用していく力が求められる。新学習指導要領では、小学校からプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を実施することを明記している。

過日、中教審・教育課程分科会で小学校5年生の算数授業でプログラミング的思考を育成する指導法として、コンピュータを使い正多角形を作図し図形の性質を学ぶ取組を各委員に体験させていた。従来の算数授業では、定規、分度器、コンパスなどを使い作図しながら思考力や技能を養成していた。プログラミング教育が思考力の育成になるのか疑問を感じた。(T)

◇10月

- 5 部長会
- 11 生涯福祉部会
- 17 教育振興部会
- 17 会計税理士と会計担当者の打ち合わせ会
- 29 部長会
- 30 教育課題委員会

◇11月

- 5 教育関係団体全国集會に参加（教職員定数改善）
- 8 全連退情報162号発行
- 12 部長会・運営検討会議
- 14 会計部会
- 19 広報部会
- 20 教育振興部会
- 20 運営検討会議
- 21 生涯福祉部会
- 26 常任理事会
- 27 広報部会
- 28 会計部会
- 29 全連退情報163号発行

◇12月

- 3 東京都退職校長会との連絡・懇親会
- 4 広報部会
- 5 出版事業委員会
- 6 部長会
- 13 国会議員への陳情（教育振興・教育の日制定）

全連退ホームページ「表紙の写真」募集について

全連退ホームページの表紙を飾る写真を、会員の皆様から募集いたします。内容は、表紙にふさわしいものであれば、自由です。写真は3～5枚で、メールまたはプリント写真での受付といたします。採用させていただきますと、作品名とお名前を掲載して一定期間活用させていただきます。宛先は全連退広報部です。今回の募集期間は2019年5月31日までです。

送先 メール info@zenrentai.org
郵送 東京都品川区東五反田5-21-13-308

編集後記

○新しい年を迎えました。皆様にはいかがお迎えでしょうか。

○学校における働き方改革問題は、子供たちが良質な学校教育を受けられるようにするため、教育界全体で取り組んでいく問題です。全連退としては、今年も文部科学省や国会議員への働きかけを行ってまいります。

○9月の事務局長会での協議題は「会員の絆を大切にし、会員相互の生きがいを支援する実践事例」でした。各グループとも活発な意見交換が行われました。

○今年も広報部員一同は、より良い会報の発行に努力します。よろしくお願いたします。

全連退会報 (210号)

発行 平成三十一年一月一日
発行所 東京都品川区東五反田 五二一三三三〇八

全国連合退職校長会
電話 〇三三四四二八七六八
FAX 〇三三四四二八七六八
Email: info@zenrentai.org
振替口座 〇〇一九一四四七二〇

○責任者 入子 祐三
印刷 株式会社 信行社
電話 〇三三四三三三六二二